

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572709541		
法人名	有限会社 クリーンマジック		
事業所名	グループホーム大雄 (1ユニット)		
所在地	秋田県横手市大雄字上田村東38番地		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年、百歳を迎えた利用者様がおり、ご家族様と一緒に祝いをしました。ユニットに関係なく交流しているので、レクリエーションや作業を一緒に行っています。ホーム内を散歩していても、お互いに挨拶するのが習慣になっています。今年の納涼祭では、ご家族様と一緒にレクリエーションや体操を行ったことで、ご家族様より「面会の時には見られない表情が見れてよかった」と感想を聞くことができました。今年も地域や小学校の行事に参加させていただき、昨年に引き続きホームへ6年生が訪問してくれる予定になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

B5法を活用しホーム独自の理念を作成している。望・楽・笑・心の大きなOで囲んだ4文字がまずは目に入ってくる印象的で分かり易い理念である。近隣小学校の行事である、なべっこや学習発表会・わらび座公演に招待されたり、避難訓練の際に駐車場を活用するため、小学校を臨時駐車場として活用させていただく等、実に交流が盛んである。働く環境委員会が設置され、意見や悩み、要望等気付いた事を何でも記入し委員会に毎月提出する仕組みを採用している。提出者氏名は委員会止まりで、必要に応じ、聞き取りしたり、話し合い共有することで、内容をホームの運営に反映させている。全家族に運営推進会議の案内を郵送しており、都合のつく方数名が毎回参加してくれている。自己評価及び外部評価結果についても、同じく全家族へ送付しており、ホームからのアンケートも含め、家族に対する丁寧な情報提供が行われている。男性スタッフが比較的に多いことが、異性である入居者に良い意味での刺激になっていると思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で利用者様が望む暮らしを考え食堂で掲示している。地域の方や、ご家族様と関わりが持てるよう日々取り組んでいる。	(有)クリーンマジックとしての3項目の基本理念に基づき、BS法を活用しホーム独自の理念を作成している。望・楽・笑・心の大きなOで囲んだ4文字がまずは目に入ってくる印象的で分かり易い理念である。他にパンフレットには～ホームが目指すもの～と題した4項目の指針も確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩をしながら挨拶を交わしたり、近所の方より招かれ花を見に出かけたりしている。小学校の行事にも参加させていただいている。	近隣の小学校の行事である、なべっこや学習発表会・わらび座公演に招待されたり、避難訓練の際に駐車場を活用するため、小学校を臨時駐車場として活用させていただく等、実に交流が盛んである。ホーム廊下の壁にお礼にいただいた小学生の押し花作品が掲示されていた。地区の運動会にも参加しており、散歩で住民とあいさつを交わすとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議や広報の配布を通して伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料を配布し、活動状況や勉強会等を報告している。意見交換や情報収集を行いサービス向上、改善に活かしている。	全家族に運営推進会議の案内を郵送しており、都合のつく方数名が毎回参加してくれている。自己評価及び外部評価結果についても、同じく全家族へ送付しており、ホームからのアンケートも含め、家族に対する丁寧な情報提供が行われている。求めに応じ、運営推進会議への参加者名簿を簡単に提示できる工夫を検討してはいかがでしょうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議の際に相談したり情報交換を行っている。	健康福祉部高齢ふれあい課の担当職員が運営推進会議に毎回参加している。地域包括支援センター主体の地域ケア会議に参加し、事例検討や情報交換を密にしている。横手市地域包括支援センターの「在宅医療・福祉・介護連携ガイド」にて、このホームのアピール内容等が確認できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けての勉強会を行っている。日中、玄関に施錠せず自由に入出りできるようにしている。	前回の外部評価結果を踏まえ、現在対象者はいないものの、拘束の解除についての家族への連絡についての記録整備の体制が確認できた。10月に身体拘束防止に向け、グループワーク形式での事例研修を実施しており、身体拘束の防止に向けたマニュアルや様式の整備も確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い対応に注意するようにしている。万一、発見した場合は早急に事実確認ができるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している利用者様がいるので、生活支援員や専門員の方と情報交換をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム見学時や面接時、面会時に要望等の聞き取りを行っている。法の改定時には、書面で説明をし承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一回、状態報告文を送る際に意見書を同封している。玄関にも意見箱を設置している。面会時には、利用者様の状態報告をし、要望の聞き取りを行っている。	家族の望みを聞き取るための「意見書」様式を独自に作成しており、家族に郵送する状況報告(受診・往診・薬・入居者の望み・ホーム内での様子・行事への参加・今後の予定・担当より)に同封されている。受理した「意見書」には受付番号をふり、内容について対応や説明等の経過が記録され、スタッフ間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行っている。また、働く環境委員会を設け、意見や悩み、要望等を書いてもらい内容によっては話し合いをしている。	働く環境委員会が設置され、意見や悩み、要望等気付いた事を何でも記入し委員会に毎月提出する仕組みを採用している。提出者氏名は委員会止まりで、必要に応じ、聞き取りしたり、話し合い共有することで、内容をホームの運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者に管理者が職員の勤務状況を報告している。また、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で勉強会を行ったり、外部研修に参加している。また、資格取得の補助等、職員育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や横手市グループホーム協議会の人事交流等に参加して情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人から意見や要望等を聞き安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や面接時に意見や要望等を聞き取りしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に作業等を行い、共に支えあう関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に相談したり協力をお願いし、利用者様が安心して過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由としており、ゆっくりと過ごせるようにしている。今まで利用していた床屋へ出かける利用者様もいる。	入居時に、本人が大切にしてきた馴染みの人や場所について十分に聞き取るよう取り組んでいる。家族や近所の方、仲間が訪問した際は、各居室で過ごしてもらうことが多い。家族と外出し、昼食を共にしたり、お盆や正月に家族と外泊することを心待ちにしているとのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が共に支えあえるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネージャーと連絡をとったり、ご家族様に声をかけたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から聞き出したり、毎月望みの聞き取りを行い実現できるよう取り組んでいる。困難な場合は、利用者様の立場になり検討している。	日常生活の中で本人の思いや意向をくみ取るのはもちろんのこと、担当スタッフがケース会議の前にも定期的に本人から思いや意向を聞き取り、共有している。娘さんにプレゼントするために、マフラーや帽子を編む方、買いたい物をメモ書きし手渡す方の事例を紹介していただいた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に聞き取りを行っている。日々の生活の中で聞き職員と情報を共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースに合わせて過ごしていただいている。生活の様子を記録に残し送りを行い現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や日々の生活からの様子、ご家族様の要望を聞き介護計画を作成している。	毎月のケース会議で全利用者を対象に良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人への聞き取りを実施し、検討している。全スタッフの気づきや意見を反映させるために、当日参加できない場合は、紙面で参加している。詳細にわたる具体的な計画が確認できた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の様子や状態変化を介護記録に記入し、申し送り等を行い情報を共有している。必要に応じて介護計画に追加、見直しを行っている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からのなじみのある場所に出かけたり、小学校の行事や地域の運動会へ参加させていただいている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が希望している病院、かかりつけ医を利用している。嘱託医へは24時間、連絡、相談ができる体制を整えている。	利用者の心身状態の変化に応じ、嘱託医が往診してくれる体制にある。本人や家族の希望で、協力歯科医院が年に2回検診に訪問。薬局の薬剤師とは互いに気兼ねなく連絡し合える関係にある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ状態報告をし、介護や手当てのアドバイスをいただいている。体調不良時や気になることがある時は、直接医師へ連絡し適切なアドバイスをいただいている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の様子を情報提供し、面会時は状態の聞き取りを行っている。看護師や医療相談員と連絡を取り話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、ホーム職員とで相談し今後の方針についての話し合いをしている。その際は、訪問看護等も利用できるように主治医、ご家族様と相談している。	入居時には「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づき説明をし、説明に対する同意を得ている。嘱託医の指導の基、過去に3人を看取った経験を有している。重度化した場合等には、医師・家族・ホームで今後の対応について十分に検討する体制にある。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニットに緊急時対応マニュアルを準備し確認できるようにしている。今後、勉強会を行う予定である。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月から10月の間は、毎月、避難訓練を行い、年2回は消防立ち会いのもと消火訓練を行っている。地域の消防団にも協力をお願いしている。	前回の外部評価結果を踏まえ、車椅子にとって狭く、段差が気になる避難用スロープの改修工事が8月に終了している。過去の避難訓練では、居室確認済のための札の活用、訓練時の階段利用時の安全最優先、スタッフの発声のトーン等について、消防署からのアドバイスが確認できた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声かけを行い、声の大きさやトーンに気をつけ誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	利用者に理解できるよう、あえて方言を使った言葉掛けを行っていた。コミュニケーションが図られると、無意識に友達感覚での声掛けになりがちなので、周囲に悟られないトイレ誘導等、利用者が年上であることを自覚した声掛けを心掛けるよう、注意を促しているとのこと。	職員一人ひとりの力量を把握し、法人内外の研修や、日常業務を通して、その質の向上に取り組んでおり、今後も継続することで、更なる向上に期待します。
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中から望みや思いを聞き出したり、自己決定をしやすいような場面作りを心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた声かけや支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したり要望に応じて毛染めを行っている。身だしなみが整えられるように準備し支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、季節や行事に合った食事の提供を心がけている。準備や後片付けができる利用者様には一緒に手伝っていただいている。	年越しの数の子やひな祭りのちらし寿司等々、行事に合わせ利用者に昔懐かしい食材を提供するよう工夫している。菊の花の下準備や大根おろし作り、蕎麦の皮取りは利用者の仕事、食器拭きやテーブル拭きも、できる限り参加できるように配慮している。春には、スタッフがわらびやコゴミ、蕎麦等の山菜を提供してくれ、利用者に喜ばれている。箸と茶碗は家庭で以前使用していた物の持ち込みを推奨している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、状況に応じて補食をすすめている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけをし利用者様に合わせて見守りや介助を行っている。週3回義歯のポリドント洗浄を行い、年2回歯科健診の協力をいただいている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう誘導している。利用者様に合わせて使用するパッドの種類を使い分けている。	見やすいよう色分けされたA4サイズ一枚に個別に4日分のチェック表様式を採用している。個々の排泄パターンを把握し、更に月毎にデータ化することで、失敗やおむつの使用を出来る限り減らし、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。ポータブルトイレを使用している方は今はいないとのこと。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や運動をすすめたり、牛乳、ヨーグルト等の乳製品、水分摂取をすすめている。便が何日も出ない時は、薬を内服することもあるが量を調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態に合わせて清拭やシャワー浴等の入浴介助を行っている。	基本的には1対1の介助であるが、必要に応じ2名で対応するケースもある。医療機関の受診で手薄になり、入浴に影響することもある。脱衣室にも床暖房を採用しており、冬場にはありがたい。利用者の状況を配慮し、清拭やシャワー浴も取り入れている。	スタッフの欠員を補充するため、その確保にあらゆる手をつくしてはいるものの達成できない現状にあるので、今後の早期達成を期待します。
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や状況に合わせて、休息の声かけや誘導を行っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は、職員がいつでも確認できるように利用者様ごとのファイルに保管している。申し送りや連絡帳で情報を共有し内服後の様子を記録に残している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の全般を職員の介助で行っている利用者様が多いが、できる方は食器拭きやタオルたたみ等を職員と一緒にしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様やご家族様と相談し、外出や外泊ができるようにしている。地域の行事に参加している時は、地域の方にも協力していただいている。	散歩・花見・買い物等、できる限り戸外に出れるよう取り組んでいる。家族の送迎で買い物や外食に出掛けるのが楽しみとのこと。冬期は、雪や寒風で車椅子を使用している外出が危険を伴うとのこと。あちこちの観光地にドライブに出かけており、外出先での笑顔の写真がホーム内に掲示されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者様がいないので、すべて職員が管理している。外出した際は、欲しい物を聞き一緒に買い物をしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという訴えは少ないが、ご家族様から届いた手紙を見たり、職員が手紙を代読している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や温度、湿度調整を行い過ごしやすいように努めている。ホーム内に季節の装飾を行ったり、行事や外出の写真を飾ったりしている。	ホームのあちこちらに加湿器が備え付けられ、全て稼働していた。床暖のため乾燥気味のためとのこと。夜勤者によるモップ掛けや毎朝の掃除、夜の消毒を兼ねた拭き掃除と、清潔保持に積極的に取り組んでおり、ホーム全体がいつも清潔である。季節の花々を飾ることで季節感を醸し出している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活全般を職員の介助で行っている利用者様が多いため、食事の際の座る場所は固定になることが多い。その他はソファーに座って過ごしたり、場所を移動し会話ができるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい物だけでなく自宅で使用していた物も持ってきていただいている。家族の写真や贈り物は利用者様の見えやすい位置に飾っている。	ベッドは持ち込みであるが、介護用ベッドでないと対応できない方用にホームで介護用を購入し提供している。タンスや衣装ケース、椅子等使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。家族が持参した微笑ましい写真が居室に飾られていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の目線に合わせた場所に貼紙をしたり、時計を置いている。食堂や居室は、利用者様の状態に合わせ、その時々で配置をかえている。		